

令和2年度 指定管理業務評価結果書

1 施設の名称等

(1) 公の施設の名称	中島病院旧本館（呼称：城西浪漫館）及び津山城下町歴史館
(2) 指定管理者	所在地 津山市小田中1312-10 名称 城西まちづくり協議会 代表者 会長 高須 昌明
(3) 公の施設の所管部署	産業文化部歴史まちづくり推進室
(4) 指定期間	令和2年4月1日 ～ 令和5年3月31日
(5) 評価対象期間	令和2年4月1日 ～ 令和3年3月31日

2 施設の利用状況

(1) 利用者数等 <small>※来館者数、喫茶利用者数、貸室利用件数は城西浪漫館のみ。</small>	令和2年度実績	対 R元年度	令和元年度実績 <small>※前指定管理者の実績</small>	対 H30年度	平成30年度実績 <small>※前指定管理者の実績</small>
	来館者数 11,288人 喫茶利用者数 4,197人 貸室利用件数 14件	3,580人 1,341人 3件	来館者数 7,708人 喫茶利用者数 2,856人 貸室利用件数 11件	-6,086人 -1,351人 5件	来館者数 13,794人 喫茶利用者数 4,207人 貸室利用件数 6件
(2) 事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・開館業務 ・貸室業務 ・喫茶室運営 ・自主事業（物販、イベントの開催、まちの駅2号店としてインフォメーション事業の実施 など） 				

3 収支の状況

(1) 収入	令和2年度実績		対 年度		令和 年度実績		対 年度		令和 年度実績	
	総額	千円	総額	千円	総額	千円	総額	千円	総額	千円
(指定管理者の収入)	12,250	千円		千円		千円		千円		千円
内 訳	内 訳		内 訳		内 訳		内 訳		内 訳	
指定管理料	3,400	千円		千円		千円		千円		千円
施設継続・再開事業助成金	400	千円		千円		千円		千円		千円
利用料金	48	千円		千円		千円		千円		千円
喫茶売上	1,260	千円		千円		千円		千円		千円
自主事業	7,059	千円		千円		千円		千円		千円
雑収入（利子ほか）	83	千円		千円		千円		千円		千円
(2) 支出	12,245	千円		千円		千円		千円		千円
(指定管理者の支出)	12,245	千円		千円		千円		千円		千円
内 訳	内 訳		内 訳		内 訳		内 訳		内 訳	
人件費	2,375	千円		千円		千円		千円		千円
消耗費	506	千円		千円		千円		千円		千円
光熱水費	484	千円		千円		千円		千円		千円
通信費	98	千円		千円		千円		千円		千円
警備委託	101	千円		千円		千円		千円		千円
備品費	676	千円		千円		千円		千円		千円
消防点検費	11	千円		千円		千円		千円		千円
修繕料	23	千円		千円		千円		千円		千円
保険料	34	千円		千円		千円		千円		千円
事務費	232	千円		千円		千円		千円		千円
雑費	708	千円		千円		千円		千円		千円
喫茶仕入	300	千円		千円		千円		千円		千円
自主事業費	6,060	千円		千円		千円		千円		千円
小 計	11,608	千円		千円		千円		千円		千円
中島病院旧本館(城西浪漫館)	240	千円		千円		千円		千円		千円
津山城下町歴史館	10	千円		千円		千円		千円		千円
光熱水費	131	千円		千円		千円		千円		千円
通信費	61	千円		千円		千円		千円		千円
警備委託	186	千円		千円		千円		千円		千円
消防点検	4	千円		千円		千円		千円		千円
剪定委託	5	千円		千円		千円		千円		千円
小 計	637	千円		千円		千円		千円		千円

4 総合評価結果

(1) アンケート調査等	城西まちづくり協議会の部会及び店頭で意見聴取を行った。
(2) 指定管理者の自己評価	<p>開館当初より隣接する中島病院との関係を大切にしており、多くの病院スタッフや来院された方に利用していただき、病院のご厚意で駐車場を共有してもらったことで、お客様の利便性の向上を図ることができた。地元の間近内会との関係も良好で多くの方に販売コーナーやカフェを利用いただいている。地域の高齢者の見守りや商品の配達、カフェを交流の場に利用いただくなどの関係を築くことができ、近所に買い物する場所がないため、弁当、パン、菓子、新鮮な野菜などが近くで購入できて便利になったと喜んでいただいている。</p> <p>カフェについては、引き立て珈琲をドリップで提供することにこだわり、スタッフも練習を重ね、珈琲のリピーターが増えている。コーヒーカンで宇田川榕庵が伝えた当時の煎れ方を再現したところ、好評でコーヒーカン2台目を作成し、年度末時点で200名以上の方に提供した。貸館はコロナ禍で利用者は少なかったが、会議の他、書道教室の作品展、絵画の個展、写真撮影に使っていただいた。イベントで実施した「ギター演奏とコーラス」で音の響きが良く、音楽の練習会場に使用したいという希望もある。</p> <p>津山城下町歴史館については、「津山城下町謎めぐり」に参加し、高校生のボランティアと協力して、和室にひな人形を飾った。謎めぐりの地図に掲載してもらったことで、多くの方が歴史館に足を運んだと思われる。</p> <p>指定管理2年目に向け、城西浪漫館の2階を活用した自主事業と津山城下町歴史館の活用が課題であると考えている。併せて、重要伝統的建造物群保存地区になった作州民芸館周辺地域とつながる事業を企画し、城西浪漫館の来館者に城下町を楽しんでいただけるようにしたい。そのためにもスタッフ研修を継続していく。</p>
(3) 市の評価	<p>令和2年度から現指定管理者が管理運営することとなったが、4月の開館当初から新型コロナウィルスの影響で休館や一部休館になるなど、年間を通して厳しい運営状況であった。</p> <p>しかし、利用者数を前年度比146%、喫茶利用者数を前年度比147%、貸室利用件数を前年度比127%とし、収支も黒字にするなど、コロナ禍でもテイクアウト商品の提供や利用者ニーズに沿った地場商品の充実、コーヒーカンを活用した独創的な珈琲の提供など創意工夫を凝らして営業を行った効果であると考えられる。</p> <p>また、隣接する中島病院や地域と良好な関係を築き、地域住民の拠点施設としての役割を担うことで、地域の活性化に大きく寄与するとともに固定客の確保につながっている。館内のコロナ対策もガイドラインに従い、適切に行っていた。津山城下町歴史館については、イベント実施が難しい状況ではあるが、さらなる活用を検討してほしい。</p> <p>情報発信については、施設に関するパンフレットを作成し、ほぼ毎日フェイスブックを更新して積極的に集客を図っていた。かつ、コーヒーカンによる珈琲の提供など城西浪漫館ならではのオリジナル商品の提供により、TVや新聞、雑誌に数多く取り上げられた。</p> <p>今後も知名度を向上させ、市内外の利用者が増えるようイベントや情報発信、施設の歴史や雰囲気を活かしたオンラインの商品開発などに継続して取り組んでほしい。</p>